

福岡県公立高校入試徹底分析【国語】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	60点
問題構成	概要について 大問4題で構成されている。[一]説明的文章・[二]文学的文章・[三]古典・[四]作文である。 ※「言語」に関する出題は、今年は[一](2)に出題されている。 [一](1)は説明的文章で12点配点、(2)は(1)の本文と関連させる問題や文法・漢字・語句・書写に関する問題で9点、[二]は文学的文章で12点配点、[三]は古典で12点配点、[四]は作文で15点配点。 出典について [一] 犬塚美輪『読めば分かるは当たり前？ 読解力の認知心理学』 [二] 喜多川泰『おあとがよろしいようで』 [三] 金谷治 訳注『韓非子 第二冊』 [四] 資料：「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」 （平成30年3月文化庁審議国語分科会） 各大問の「記述式」問題の出題について [一] で出題された記述式は1問で、本文の内容をまとめた文の空欄に入る言葉を補う問題であった。 [二] で出題された記述式は2問で、15～20字、20～25字で答えさせるものが出題された。 [三] で出題された記述式は2問で、どちらも本文についての先生と生徒の会話から出題された。 [四] は「コミュニケーション」について、棒グラフの資料をもとに意見を述べる作文であった。 今年度は知識事項では幅広い語彙力を問う出題が見られた一方で、抜き出し問題は傍線部の近くから答えを探しやすい出題が多く、記述式問題も前後の文が与えられているため、考えやすい問題だった。		

	令和8年度(2026)	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)
問題量（A4で）	10ページ分	10ページ分	10ページ分	10ページ分	10ページ分
小問数	26問	26問	28問	25問	27問
論述問題の数	6問	6問	5問	8問	8問
論述問題配点	25点	27点	24点	32点	31点
受験者平均点	43点	37点	39点	31点	36点

【出題の傾向と対策】

①[一]「論説文」では接続語、段落の役割などの理解に加え、比喩表現や抽象化した表現の内容が問われた。

[一]から特徴的な問題をPickUp！（得点率65.3%）

問二 本文中に ①物語に移入するプロセスを「旅」の比喩で表現しています とあるが、この「旅」の比喩において「物語の世界」に当たる部分を、本文中から十八字で探し、初めの四字を抜き出して書きなさい。（答え：もともと）

☞本文で注目するべきところ

ゲリグ（認知科学者）は、①物語に移入するプロセスを「旅」の比喩で表現しています。読み手は旅人であり、もともといた世界から少し離れたところに旅に出ます。旅に出ると、もとの世界にいつでもどおりアクセスすることはできません。

☞考え方と傾向

傍線部①の直後の文に「旅」に出る先が書かれている。「プロセス」や「比喩」といった言葉にとらわれて、難しく考えすぎると答えが見つかりにくくなってしまう。「文脈」をしっかりと追い、物語に移入する前の世界である「もとの世界」と対比的な表現を探して考える。

②[二]「小説文」では「発言」や人物の「様子」を通じた心情の読み取りについての出題が目立つ。

[二]から特徴的な問題をPickUp！（得点率72.6%）

問三 本文中に ②ねえ、いつものおっちゃんじゃないの？ とあるが、この言葉があることによる効果として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。（答え：3）

- 1 子どもたちが、今日は慣れ親しんだカメラマンがいないことに気づき、落胆したことを印象付ける効果。
- 2 暖平が、子どもたちの素直な言動によって写真を撮る自信を失い、悲しみを感じたことを暗示する効果。
- 3 文彦が、親しみのあるカメラマンとして、子どもたちに受け入れられていることを印象付ける効果。
- 4 暖平が、文彦と比較されたことで、いい写真を撮ろうと奮起するきっかけになったことを示す効果。

🔊本文で注目すべきところ

26行目 やって来て驚いたのは、子どもの側から暖平の方に寄ってくることだった。

29行目 文彦は子どもたちの間でやはり人気があるらしい。

32行目 暖平がそう言うと、別にながかりするわけではないが、～

🔊考え方と傾向

傍線部に含まれる「発言」だけで考えると、1を選びたくなるが、発言の前後の「様子」にも注目をする
と「落胆した」は「ながかりするわけではない」と明確に否定されていることがわかる。文字に起こされた
「発言」だけではなく前後の流れや、発言をしている様子から心情を読み取る力は、現代社会で情報を読む
際に求められている力に直結する。

③[三]歴史的仮名遣い、漢文の返り点の出題、複数の文を読み比べる出題などが定着している。

[三]から特徴的な問題をPickUp！（得点率60.8%）

問五(3) [ウ]に入る内容を、五字以上、十字以内で考えて書きなさい。

（答え：【例】何度も変更しない）

大国を治める者は、法を[ウ]ほうがよい

🔊本文で注目すべきところ

現代語訳：大国を治めてたびたび法を改めたのでは民衆が苦しむことになる。

🔊考え方と傾向

抜き出しではなく、文脈に合わせて言葉を反対の意味に書き換える必要がある。「現代語訳」を参照しながらも、最終的に答えを出す際は自分の頭で考える必要がある出題であった。

④[四]「言葉を用いたコミュニケーション」という受験生にとって身近なテーマであることから、比較的取り組みやすい作文であった。

[四]から特徴的な条件をPickUp！（得点率71.5%）

条件2 第一段落には、【資料1】の事例において、誤解が生じないようにするにはどうすればよかったか、
Aさん、Bさんのいずれか、または両者の改善点を挙げ、その理由を書くこと。

条件3 第二段落には、第一段落を踏まえ、言葉を用いたコミュニケーションをよりよくしていく上であなたが大切だと考えることを、【資料2】のⅠ、Ⅱのいずれか、または両方の内容に関連付けて書くこと。

🔊考え方と傾向

第一段落に改善点とその理由を書かせており、第二段落の考えも資料と関連付ける必要があるため、作文の内容に一貫性が求められている。与えられた情報をもとに考えを深めて意見を述べる必要がある。

作文例： Aさんは、Bさんが言った「大丈夫です」という言葉の真意をその場で確認すべきだった。「大丈夫」という言葉は、文脈によって肯定にも否定にも受け取れるため、自分の都合の良ように解釈してはならないからだ。

資料2のⅡによると、相手の伝えなかったことと自分の受け取りが食い違っていた経験を持つ人が六割以上いる。よりよいコミュニケーションのためには、自分の思い込みで判断せず、相手の真意を丁寧に確かめ合う姿勢が大切だと私は考える。